

月刊

300



地図と学ぶ

通巻

592

2022年1月

地図中心

総特集

日本路面電車地図帳





おかげさまで 50 年

日本地図センターは 2022 年 2 月に

1972 年 2 月の設立から 50 年を迎えます

地図中心 592 号 目次【総特集 日本路面電車地図帳】		
①	札幌市電	野月 貴弘 3
②	函館市電	野月 貴弘 4
③	都電荒川線(東京さくらトラム)	白土 貞夫 6
④	東急世田谷線	白土 貞夫 7
⑤	江ノ島電鉄	白土 貞夫 8
⑥	富山地方鉄道市内電車	野月 貴弘 10
⑦	万葉線	野月 貴弘 12
⑧	福井鉄道福武線	野月 貴弘 14
⑨	豊橋鉄道市内線	野月 貴弘 16
⑩	京福電気鉄道(嵐電)	野月 貴弘 18
⑪	京阪電気鉄道大津線	津沢 正晴 19
⑫	阪堺電気軌道	野月 貴弘 22
⑬	岡山電気軌道	野月 貴弘 25
⑭	広島電鉄	津沢 正晴 26
⑮	伊予鉄道市内電車	津沢 正晴 30
⑯	とさでん交通	野月 貴弘 30
⑰	長崎電気軌道	今尾 恵介 34
⑱	熊本市電/熊本電気鉄道	今尾 恵介 35
⑲	鹿児島市電	今尾 恵介 38
⑳	宇都宮ライトレール 日本初の新設 LRT	片岡 義明 40
	わが国の路面電車略史 その 127 年の消長	白土 貞夫 42
	路面電車の過去、現在、そして未来	今尾 恵介 46

地図倶楽部月報 / 50 新刊地形図案内・今月新刊の見どころ! / 51
編集後記・次号予告 / 52

日本路面電車地図

本誌に掲載している路面電車地図は、地理院地図(標準地図)を基に、全図を縮尺 3 万分 1として作成したものです。

路面電車の軌道は、2 万 5 千分 1 地形図図式の中の鉄道区分で路面の鉄道として区分されています。

この記号の図式適用にあたっては、道路上に敷設された鉄道で、単線又は複線を区別しないとあります。また、道路上に敷設されていない区間は、普通鉄道の記号で表示されます(図 1)。ただし、本図の路線は地理院地図で普通鉄道(JR 線以外)で示されている区間においても記号を変えないで表示し、また、他記号との立体交差部、トンネル内、建物内などは間断することなく連続して描いています。

表紙 路線図: 本誌掲載路線図の縮小図(丸数字は、目次に対応)

写真: 右上から、札幌市電「東屯田通」付近の M 100 形、富山地方鉄道「安野屋」付近のデ 7000 形、JR 豊橋駅前の豊橋鉄道モ 800 形、京福電気鉄道「妙心寺」付近のモボ 611 形、伊予鉄道「道後温泉」のモハ 50 形、東急世田谷線「世田谷」のデハ 300 形、都電荒川線「荒川二丁目」の 9000 形、「学習院下」付近の 8500 形

路面の鉄道の駅※(安全地帯の名称)は、地理院地図上の位置にその長さのまま表示しました。地理院地図では、交差点を挟んで駅がある場合は、どちらか一方を表示したり、その中間位置に示したりしています。

路線図は、都市機能や街の景観、郊外の景色などが思い浮かぶような表現になっています。また、地形の起伏や傾斜なども合わせて読み取ることができるように、段彩表現を施しています。段彩の凡例(図 2)は、路線が通る付近について示しています。ただし、建物等が密集しているところは色調が異なります。

《編集室》

※停留場、停留所、停車場、電停などの呼び名がある。

月刊

地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円(税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読 1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円(税・送料込)

プレミアム会員(シニア) 満65歳以上

5,500円(税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員(紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費(税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員(シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

【路線図作成にあたって】

基図は、地理院地図(2021年11月取得)を使用し、駅名については、各鉄道事業者のWebサイト等を参考にした。

【凡例】

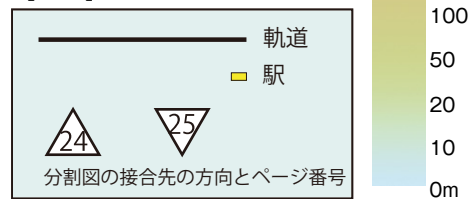


図1 地理院地図(万葉線の一部)

都道府県道(道路内部が黄色)内部の軌道が路面の鉄道。対港橋と並行している部分は、普通鉄道(JR線以外の単線)の記号で表示されている。

【特集内写真キャプション凡例】

「」内: 停留場名称
□内: 写真提供者。著者は名字のみ、写真提供のみの場合はフルネーム、記載なしは編集室

札幌市電

札幌市中央区の市街地に4路線を持っており、環状線として一体的に運用されている。明治末期の札幌軟石の石材輸送線を皮切りに、市街地まで路線を広げた馬車軌道を経て、1918年に札幌電気軌道として開業、1927年に市営化されるに至った。2020年4月1日に上下分離方式へ移行し、現在は札幌市交通事業振興公社が運営し、札幌市交通局が所有者となっている。

最盛期は約25kmの路線長を持ち、札幌市内の東西南北を結び非電化区間も存在したことから、珍しい気動車の「路面ディーゼル車」も運用されていたが、モータリゼーションによる乗客の減少や、1972年の札幌冬季オリンピック開催にあわせて地下鉄の建設が推進され、1971年末の地下鉄南北線の開業に前後して、4度にわたって市電路線の廃止が行われ、1974年には札幌市中心部の一条線(西4丁目～西15丁目)、山鼻西線(西15丁目～中央図書館前)、山鼻線(中央図書館前～すすきの)のみとなった。この3路線は連続した1つの路線として運用され、2015年の都心線(すすきの～西4丁目)の

開業で、C形の路線だったものが一周つながり環状化を成し遂げた。現在の路線長は8.9kmとなっている。運賃は均一料金で、大人200円(子供100円)である。

軌間は1067mm、電圧は直流600Vで全線が複線だ。都心線は道路の両脇に沿って線路が敷設されるサイドリザベーション方式となっている。降雪地であるため、すべての停留場にはロードヒーティングと上屋が設けられている。また車両基地は電車事業所前に隣接しており、背後には藻岩山がすぐ迫っている。

車両は、1958～1961年に製造された、札幌市電独特の美しい流線形

で大型の窓を持つ「札幌スタイル」と呼ばれる吊り掛け駆動の旧型車210・220・240・250形と、1985～1988年に製造されたカルダン駆動・VVVFインバータ制御の8500・8510・8520形、旧型車の機器を流用して車体を新製し、1998～2001年に改造された3300形、そして2013年から導入された札幌市電初の超低床車A1200形「ポラリス」、3車体連接のA1200形に対して単車とし、2018年から導入された1100形「シリウス」など、古豪形式から近年のライト

レール車両まで幅広い顔ぶれとなっている。また雪国ならではの形式として、竹製のブラシを連ねたブルームを回転させ、軌道敷の排雪を行う「ササラ電車」雪1・10・20形が在籍しており、札幌の冬の風物詩ともなっている。

《野月貴弘》



すすきの交差点を通過する3300形



路面電車の 過去、現在、そして未来

いまお けいすけ
今尾 恵介

日本で最初に電車が走ったのは明治23年(1890)4月、上野公園で開かれた内国勸業博覧会であった。現在の東京芸大あたりに敷設された1町(約109m)ほどの仮設線路^[1]に、東京電灯の技師長・藤岡市助がアメリカで買ってきた2両のスプレグ式電車が走った。馬が牽くわけでもなく、蒸気機関も積んでいない車両が動くのには興味津々で多くの人が詰めかけたという。

その9年前の1881年、世界初の電気動力による営業路線がベルリン南西部に位置するリヒターフェルデ(現在は市内)の2.5kmの区間にシーメンスの車両が走った。なぜ街外れだったかといえば、都心部にはすでに馬車鉄道が縦横に路線網を広げていたからであろう。森鷗外がドイツに留学したのはその翌年だが、ベル

リン郊外に登場したこの「新交通システム」に乗ったかどうかはわからない。

シーメンスの車両は地上のレールから集電する方式で不具合があり、現代では一般的な架線集電方式の電車を開発したのが米国エジソン研究所の技師スプレグである。ニューヨークやボストンでなくヴァージニア州都のリッチモンドに1888年に初登場した理由は、この都市が100%の急勾配がある坂の街だったからで、新技術の電車がスイスイと登ってアピールした。

◆電気鉄道が各地に登場 明治30年代

上野公園のデモンストレーションはリッチモンドの開業からわずか2年後であったが、ベルリンと同様に東京では馬車鉄道がすでに活躍して



図2 幅員が狭い道を取る地方では道路の片側に寄せて敷設された。初期の電気軌道の姿をとどめていた今はなき名鉄美濃町線。神光寺停留場付近にて1997年11月7日撮影

おり、日本初の営業運転は明治28年(1895)の京都電気鉄道になった(京都停車場～伏見町)。馬車鉄道に比べて電気鉄道は「動力費」が3分の2に抑えられる^[2]こともあって、日本の都市では最初から電気鉄道を選択する事業者が相次いだ。京都の後は明治31年の名古屋電気鉄道(後の名古屋市電)、32年の大師電気鉄道(現京急)、33年の小田原電気鉄道(現箱根登山鉄道)などが続き、明治36年(1903)には大阪市電、東京馬車鉄道を電化した東京電車鉄

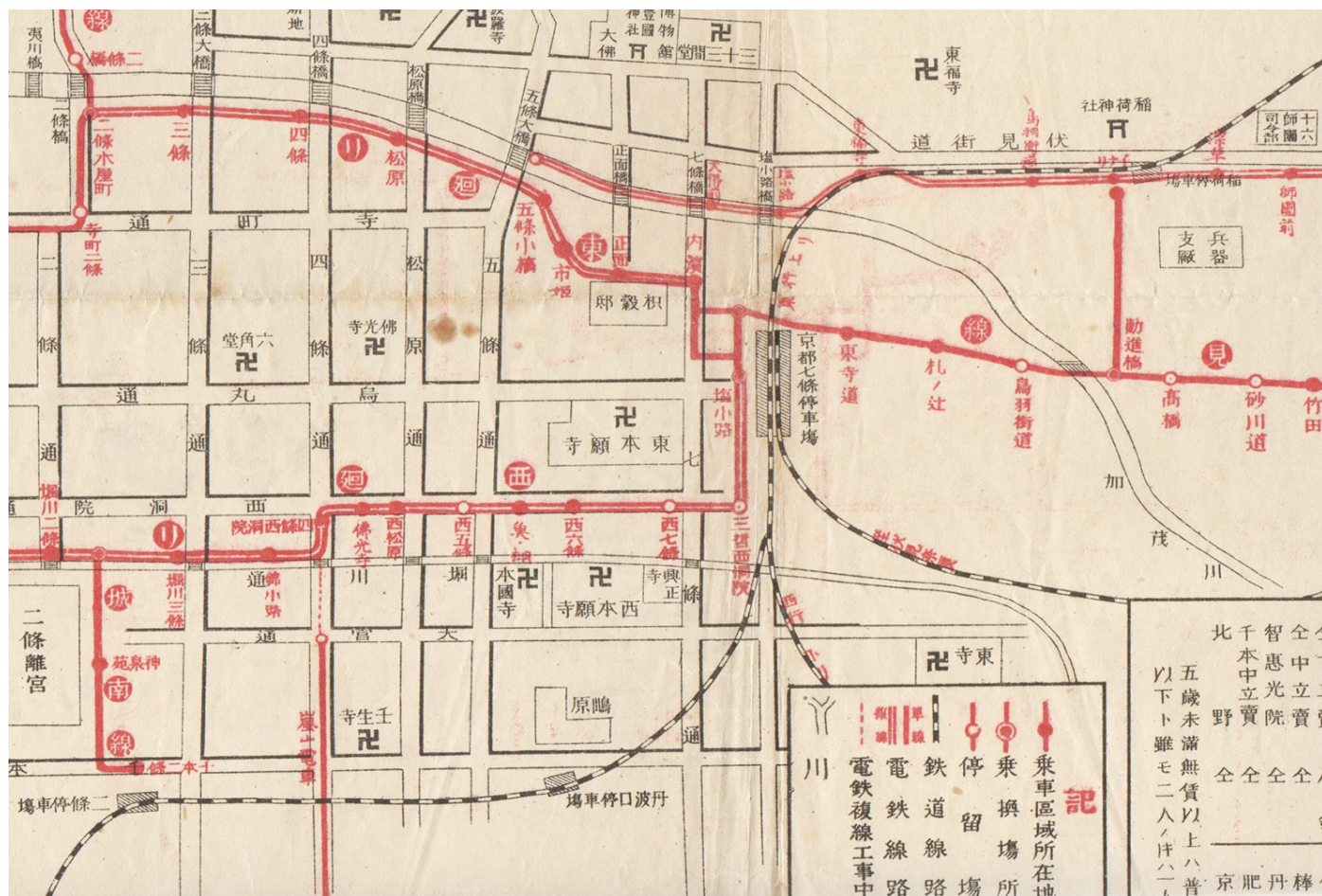
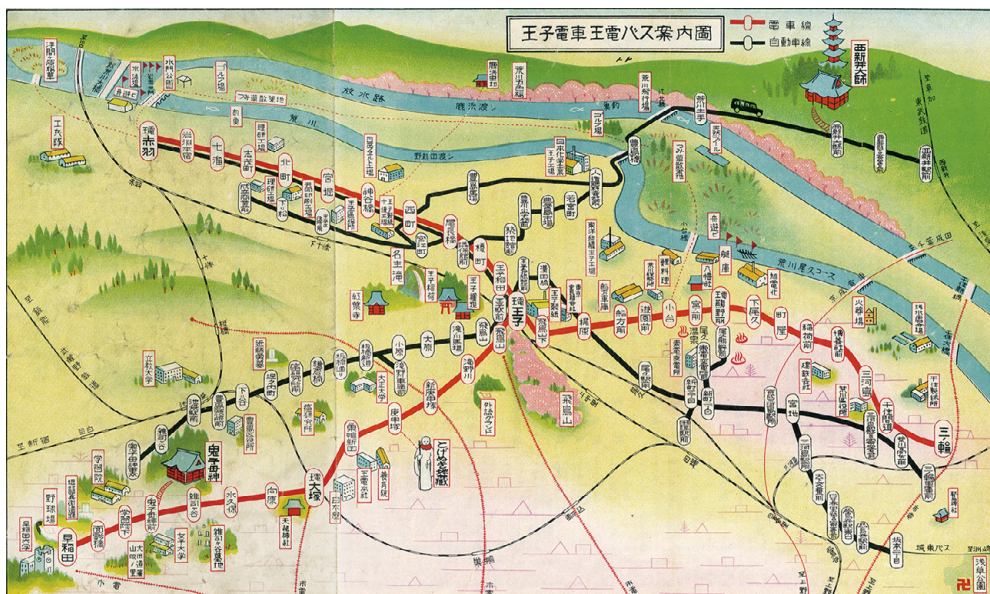


図1 日本で初めて電車の営業運転を行った京都電気鉄道の路線図「京都電鉄案内」明治44年(1911)発行

編集後記

この図は、都電荒川線(東京さくらトラム)の前身・王子電気軌道のパンフレット「王子電車王電バス案内図」の路線図です。図中に発行年の記載はないのですが、路線の状況から昭和13(1938)年のものと推定されます。表紙に「散策に、つみ草に、舟遊びに、行楽は王子電車に乗って」とのコピーがあり、荒川(現・隅田川)と荒川放水路(現・荒川)沿いを観光スポットとしてお勧めしています。

その後、1942(昭和17)年、戦時下の電力統制と交通統制のため、王子電気軌道は東京市に事業譲渡し、東京市電に。翌・1943



(昭和18)年には、戦時法制の都制施行によって、東京市が廃止されて東京都が設置されたため、東京都電車(都電)になります。

戦後・高度成長期を経た1972

(昭和47)年に、王子駅前～赤羽間が廃止されたことで、三ノ輪橋～早稲田間の路線が残り、都電荒川線として今日も走っています。〔編集長・小林政能〕

《本号特集参考》

各路面電車事業者 Web サイト, Wikipedia,
増刊旅と鉄道2021年02月号「路面電車大全集」, 山と溪谷社, 2021
イカロスMOOK「路面電車年鑑2021」, イカロス出版, 2021
地理情報開発, 別冊太陽「日本路面電車地図鑑 懐かしい未来の乗り物」, 平凡社, 2021

次号予告 2022年2月 通巻593号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心

総特集

地図と50年・地図で50年

日本地図センター50周年感謝号

一般財団法人日本地図センターは、1972(昭和47)年2月23日設立、2022(令和4)年2月に設立50周年を迎えます。内外の各種地図を広く収集し、地図に関する調査研究等を行う機関でもある日本地図センターの地図とともに歩んだ50年を、地図でたどります!



【御即位記念地図】1万分1地形図「東京中心部」

バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心

2022-1 通巻592号

発行 2022年1月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター
〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

2021年12月号(通巻591)につきまして、誤りがありました。訂正して、お詫び申し上げます。

P.12・表中:(誤)伊方市三崎港→(正)愛媛県伊方町三崎港

雑誌86689-01



4910866890126
00800